小林秀雄全集

第三卷

私小説論

小説の問題　アンドレ・ジイド
故郷を失つた文學　アランの事
文藝時評に就いて　カヤの平

小林秀雄全集

第三卷

私小説論

新潮社版

小林秀雄全集第三巻

私小説論

昭和四十三年一月二十日　發行
昭和五十一年十一月十日　七刷

定價　三千圓

著者　小林秀雄
發行者　佐藤亮一
印刷者　塚田重
印刷所　塚田印刷株式會社
寫眞版印刷　半七寫眞印刷工業株式會社
製本所　新宿加藤製本株式會社
發行所　株式會社　新潮社
東京都新宿區矢來町七一
電話　東京(266)五一一一(業務部)
東京(266)五四一一(編集部)
振替東京四一六〇八番　郵便番號一六二

(亂丁・落丁本は、御面倒ですが小社通信係宛御送付下さい。送料小社負擔にてお取替へいたします。)

© H. Kobayashi　1968　Printed in Japan

私小説論

小林秀雄全集第三巻

編輯

大岡昇平

中村光夫

江藤淳

此为试读,需要完整PDF请访问: www.ertongbook.com

第三卷　目次

文藝時評　Ⅱ

小說の問題　Ⅰ……一一
小說の問題　Ⅱ……二三
故鄕を失つた文學……二九
批評について……三八
私小說について……四六
文學界の混亂……五〇
新年號創作讀後感……六二
レオ・シェストフの「悲劇の哲學」……七一
林房雄の「青年」……八一
「紋章」と「風雨强かるべし」とを讀む……九二
文藝時評に就いて……一〇〇
再び文藝時評に就いて……一一〇
私小說論……一一九

新人Xへ……一四六
現代小説の諸問題……一五五
文藝批評の行方……一六六

文藝時評　Ⅲ

文藝月評　Ⅰ……一八五
文藝月評　Ⅱ……一九二
文藝月評　Ⅲ……一九九
文藝月評　Ⅳ……二〇七
文藝月評　Ⅴ……二一四
文藝月評　Ⅵ……二二

西洋作家論　Ⅰ

アンドレ・ジイド……二三一
「ハムレット」に就いて……二五一

アランの事……二五三
僕の手帖から……二五八
「パリュウド」について……二六三
「ルナアルの日記」……二六六
トルストイの「藝術とは何か」……二七三
アンドレ・ジイドの人及び作品……二八一
フロオベルの「ボヴァリイ夫人」……二九〇
グウルモン「哲學的散歩」……二九七
ジイド「ソヴェト旅行記」……二九九
「メデューズ號の筏」……三〇五
雜記……三〇七
「わが毒」について……三〇九
デカルト讃……三一三
ジイド「藝術論」……三一五
アランの「藝術論集」……三一六

感想 I

故古賀春江氏の水彩畫展……三一九
カヤの平……三二〇
初夏……三二六
初舞臺……三二九
失敗……三三三
山……三三五
蔦溫泉……三三九
湯ケ島……三四一
文科の學生諸君へ……三四四
僕の大學時代……三四九
處女講演……三五三

後記

解說……中村光夫…三九
解題……吉田凞生…三五

此为试读,需要完整PDF请访问: www.ertongbook.com

文藝時評 Ⅱ

小説の問題　I

かつてスタンバアグの監督した「アメリカの悲劇」といふ映畫を見た事がある。映畫專門家や映畫ファンが、これをどう批評してゐるか知らないが、あのなかに一つ水際だつた場面があつた。この一場面を理由として、私は勝手に、この制作を最優秀映畫中に編入してゐる。

場面といふのは、湖の殺しの場面である。クライドといふ男がロベルタといふ女を、ボオトで湖水に連れ出して殺して了ふまで、實にうまいなあ、うまいなあ、と思ひ乍ら見てゐた。

考へてみると近頃「うまいなあ」と感じ入りつゝ眺められる樣な映畫になかなか出會はない。と言ふのは決して近頃愚作許り見せられてゐるといふ意味ではない。どうして傑作はたくさん見せられる。見せられるが、殘念な事には、見てゐながら「うまいなあ」と思ふ暇がない、餘裕がない。ほしいと思つても持たしてくれない。それ程、生き馬の眼を拔く樣な傑作に充ちてゐる。

映畫といふものは、甚だ感覺的な藝術で、何百人といふ人間どもを薄暗い箱の中に閉ぢ込めて置いて、電氣仕掛で精神を紛失させようといふたくらみである。だから小屋の中でうつとりと痺れてゐた人間と、出て來てやつぱり交番があつたり共同便所があつたりして、てれ臭くなつてゐる人間とは、全く別人種だ。この傾向は凡そ藝術と名がつくものには多かれ少かれある筈だが、この點にかけては映畫に及ぶものはない樣である。

今日の様に苛立しい時代に、夢なぞみてゐる暇はないといふ。では、目覺めてゐるのかといふとさうではない。たゞ夢の中心が人間の心から目まぐるしい外象に移動したに過ぎぬ。機械の暴力が自然の形や運動を變化し攪亂して行くにつれて、自然の姿は次第に夢に類似して來る。そこで人間の心は、自身で夢を織り出す必要を感じなくなつた。從つて自ら夢みる能力も忍耐も失つた。だが依然として夢は欲しい。好都合の事には、人々はたゞ馬鹿面をして街頭に立てば、極度に加工された街々の運動が既に夢なのである。

映畫を見に出かける人々には、酒場や踊場に行く人々と全く同じ基本的な念願がある。自分では織れなくなつた夢を織つて貰ひに行くのだ。この念願を土臺石としてゐる映畫といふものを、私はあんまり信用する氣にはなれない。好きで見に行くんだから、何も信用不信用の話ではない様なものゝ、あんまり映畫藝術がどうのかうの喚かれると、つい大概にしやがれと言ひ度くなる。

人々の夢の强請が烈しくなるにつれて、モンタアジュだとかなんだとかカメラの狡猾も益々深刻になる。映寫幕に光線が踊つてゐる時と消えた時との人々の感覺の落差はいよいよ大きくなる。小屋から出てくる觀客達の面貌に注意し給へ。あんまり面白くて醉つぱらひ過ぎて出てくる人々の顏は、あんまり退屈でスカされて出て來る人々の顏にいよいよ類似して來る。いや、白痴の様な顏に、先刻の陶醉の糟を漂はせてゐるだけ一層愚劣に見える。

人々人々と自分を棚に上げた様なものの言ひ方をするが、私もこの人々の一員である事を忘れて貰ひたくない。私は活動小屋で幕あひにラムネを賣る必要に就いて語つたに過ぎない。女の（或は男の）手を握り乍ら映畫を鑑賞する必要に就いて述べたに過ぎぬ。

併し、一方映畫といふものが、昨今急にその獨立的性格を主張し始めたに際して、性急な映畫理論家等が、如上の平凡な事實を忘れ勝ちである事も爭はれない。映畫モンタアジュの理論が、觀衆白痴

化の問題を孕んでゐる事に思ひ到らぬとは惡い白痴である。

話かはつて「アメリカの悲劇」である。この一場面が、近頃私を喜ばしてくれた事に就いては、もうくどくど述べまいと思ふ。あそこの表現技法には、實に平常な健全なものがあつた。感覺の無暗な消費を强ひない極めて落着きがあつた。私はこの問題にもう少し複雜なひねりを與へて小說の問題に移行させようと思ふ。

「アメリカの悲劇」の作者ドライサアの文章は決して名文とは言ひ難い。老練であるが通俗陳腐である。彼は、この湖水の場面を、社會道德家的の熱つぽさで、大變克明に描いてはゐるが、別して鋭利な切れ味とでもいふものは何處にも示してゐない。スタンバアグがこゝに見せてくれた技法とは殆ど比較にならぬものである。文學と映畫、この二つの異つた表現形式が馳驅する材料、言葉と光線、そこの處を充分考へてみた上でも、この二作家の藝術家的感受性には大きな開きがある樣に思へる。少くとも次の樣な事は言へる。

ドライサアは明らかに一般讀者を意識して書いてゐる。彼等の理解を錯亂させまいと筆をはこんでゐる。事件を描寫するといふより寧ろこの事件の性質を解說してゐる。今から湖水の上に何か事件が起るといふ期待で讀者の心が搖いでゐなければ、恐らく讀者はこの冗長な解說に堪へまい。どうせ種は明かすのだ。急いではいけない、暫く我慢して俺の說明を聞いてくれ、といふ調子である。兎も角、讀者は彼の筆を辿つて、自ら織りつゞける小說讀者の夢を裏切られる心配はない。併し、一般小說愛好家といふものは、愛讀する小說からどんな感動を受けるにせよ、どんな敎訓を貰ふにせよ、ともかく愛讀者たる所以の夢を一擧に破られて了ふ樣な機會だけは決して望んではゐないものだ。ドライサアの描法は高級通俗小說の典型的描法である。

スタンバアグの場合、彼の卓拔な感受性によつて（と私には想像されるのだが）、この湖水の場面は、殆ど一般觀衆の取りつく島もない冷靜な精確さに到達してゐる。

ビク・ビタアンを取卷く何んの變哲もない山々が凡そ無愛想に姿を現す。カメラの遊戯に通達した彼は、この風景の描出に何んの遊戯も試みてゐない。風物はピントを合はせて眞正面から撮つた素朴な繪葉書の樣に展開する。この人を食つた味氣無さを通して、湖の水の冷たさだけが、ひやりとお腹の邊りに觸つて來る。事件は一瞬の裡に終る。——女を殺さうか殺せるだらうかと動搖してゐる男の表情に女は突然氣がつく。"Why, Clyde! What is it?"——と、大福餅が眉根を寄せた樣な女の顏が畫面に擴る。續いて、これ又凡そ世の心理小說家共を尻目にかけて、麥藁帽子をかぶつた細面のクライドの面貌が、深刻になり損つたバスタア・キイトンといつた具合でぬッと出る。ボオトが顚覆する。帽子が水に浮き、女の兩手が水中にかくれる。クライドが後を見い見い拔手を切る。——私はあんな正確な水音を聞いた事がない。

リアリズム機制の規範、見てゐて私はさう感じた。私はこの時の自分の整然たる感情を疑ふ事は出來ぬ。

多くの觀衆は、あの場面に失望した、と私は信ずる。何故失望したか。彼等が期待してゐた夢をこの場面は織つてはくれなかつたからである。あんまりこれが現實の姿に、平常な現實の姿に似てゐたからである。言葉を變へて言へば、日頃低劣なモンタアジュを見慣れてゐた彼等の眼には、この場面のモンタアジュは少々凝り過ぎてゐた。

觀衆は湖上の悲劇を待つてゐた、だが見せられたものはたゞ水の上の出來事であつた。

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com